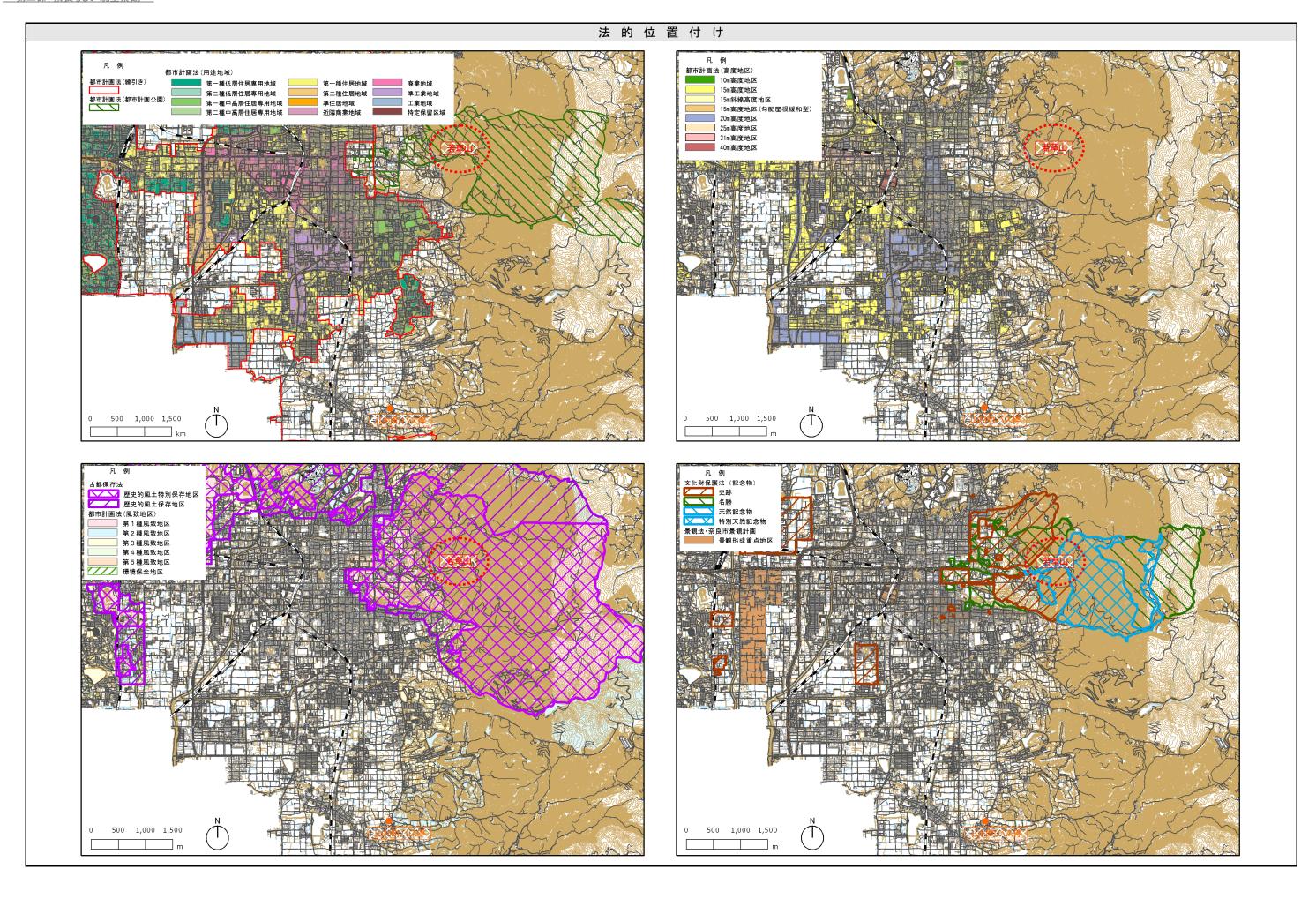
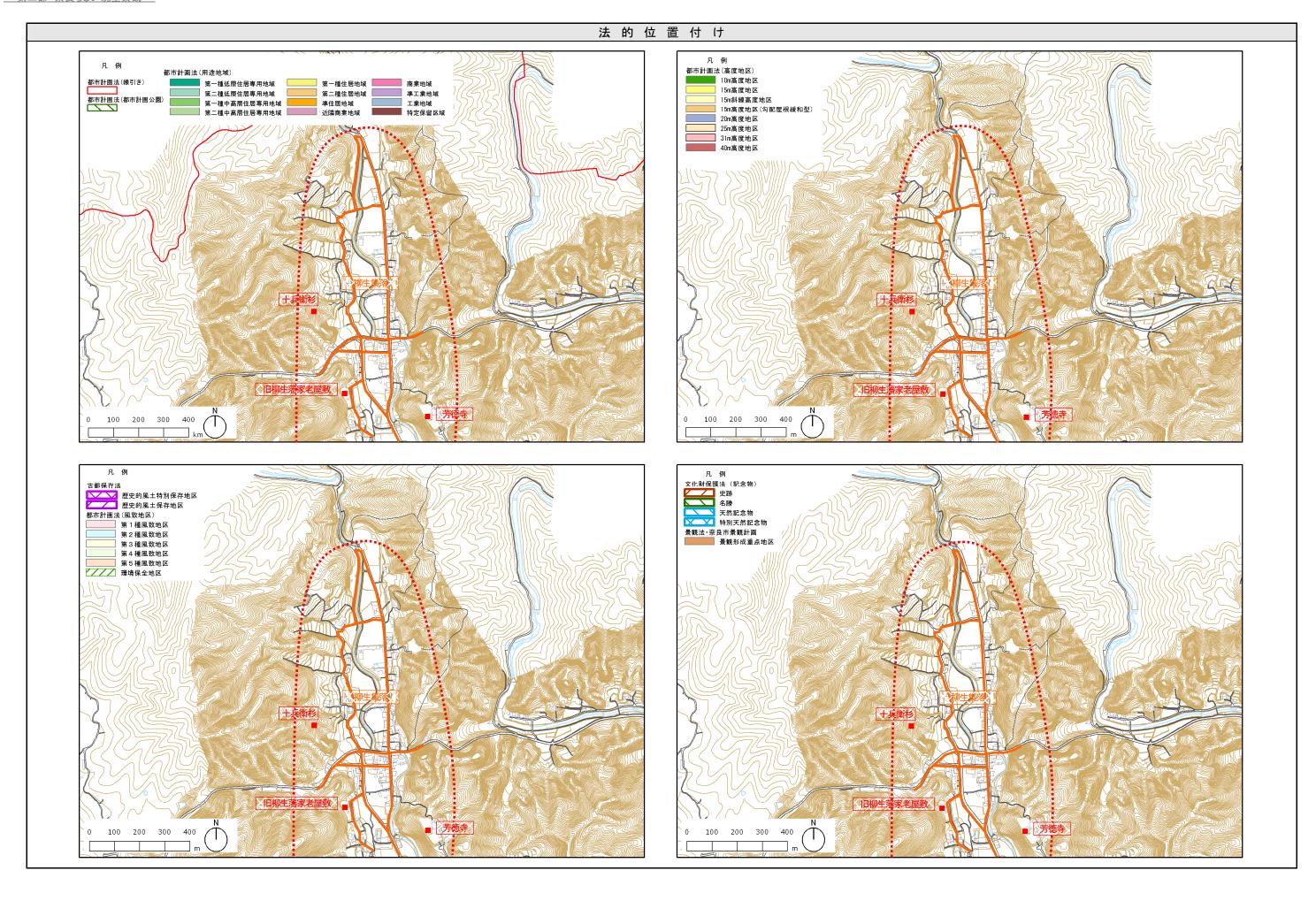
No. 34 L	山村町 <u>から奈良</u>	市街地、若草山等の山並みへの眺望	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		Ⅱ:広がり型眺望景観
	大学····································				山村町(バス停付近)
					若草山
は				近景	農地
				中景	農地、集落
				遠景	奈良市街地、若草山等の山並み
視点場がやや高台に位置していることから、中景から近景にかけての広大な農地が、パノラマ景をつくりだし、奈良盆地の地形的な特徴を一望できる。遠景には奈良市街地の広がりが望め、山並みのなかに若草山を望むことができる。また興福寺五重塔をかすかに望むことができる。					若草山は、歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区、名 勝奈良公園、史跡東大寺旧境内等として保存が図られている ため、視対象については、新たな保全施策は求められない。 近景から中景に広がる農地は、市街化調整区域かつ農業振
心で感じる	歴史的背景	<b>若草山</b> 山容が菅笠の形をし、3 つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。若草山の名は「伊勢物語」で在原業平が「むさし野はけふはな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり」と歌ったことに由来するとも言われている。東大寺山堺四至図によると、元々は樹木の茂った山であったことがわかる。山頂には前方後円墳である史跡鶯塚古墳があり、鶯山とも呼ばれる。			興地域であり、農振農用地も広く指定されているため、大きな土地の改変のおそれは少ない。しかし、個別の農地転用などにより、視線を遮るような建築物等が建設されるおそれがある。また、広がりのある農地景観に馴染まない形態意匠等の建築物等が建設されるおそれや屋外広告物等の設置による景観阻害のおそれがある。従って、広大な農地の広がりを保全し、農地と市街地の土地利用の際(きわ)の景観づくりが
		春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。			求められる。 (施策の方向性) A-1, A-3, A-4, B-1, B-3  大規模なプラントなどの工作物が市街地の縁辺部に突出し
	眺望景観の 構成要素の 関 係		整えるための視点		て見える。また、農地転用による住宅が点在しており、広大な農地のなかに突出して見える。可能な限り修景措置を施していくことが求められる。  (施策の方向性) F-1, G-1
情報としての景観の特性	名所案内記 絵 図 等	<b>若草山</b> 「大和名所図会巻ノー」(寛政3年(1791))、「奈良名所東山一覧之図」(幕末頃)、「いんばんや絵図」(明治3~15年(1870~1882))、「奈良名所細見図」(明治24年(1891))など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。	活かすための視点		公募により推薦された眺望景観であるが、多くの人が認知しているとはいえないため、積極的な情報発信が求められる。 視点場は、歩道のない道路上に、バス停として少し広がりのある場所が設けられている程度であるため、視点場としての整備が求められる。 (施策の方向性) J-1, K-1
	インベントリー	若草山 若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園 100 選」「日本の都市公園 100 選」に選定されている。また、若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。			



No. 35	柳生の里の	眺望		類	型	VI : 生活・生業型眺望景観
				視 点 場		旧柳生藩家老屋敷、柳生集落内道路
			柳生集落 注	視対象		旧柳生藩家老屋敷、芳徳寺、十兵衛杉、柳生集落の家並み等
十兵衛 <b>沙</b>			上兵衛隊。 「「」		近景域	柳生集落、農地、山林
	Time and the second	1月前生活	油 「方徳寺」 「お徳寺」	眺望空間	中景域	柳生集落、農地、山林
32P T T T T T T T T T T T T T T T T T T T					遠景域	_
目に見える:	近景に広がる水田は、柳生集落へのパノラマを創り出すとともに、背後の山林と一体となって、四季の移ろいを感じられる彩り豊かな自然景観を創り出している。 山裾に街村状に連なる柳生集落には、新しい建築物等もみられるが、低層に抑えられており、農地一集落一山林の明確な土地利用の秩序が残されているため、全体として自然に溶け込んだ美しい眺望景観を創り出している。					近景に広がる農地は、市街化調整区域かつ農業振興地域であり、農振農用地も広く指定されているため、大きな土地の改変のおそれは少ない。しかし、個別の農地転用などにより、視線を遮るような建築物等、広がりのある農地景観に馴染まない形態意匠等の建築物等が建設されるおそれがある。また、
心で感の特性	歴史的背景	旧柳生藩家老屋敷 国家老として江戸から柳生の里に移り、藩財政を立て直した小山田主営んだ旧隠居宅である。一時人の手に渡ったが、その後、山岡荘八が買得し、NHK 大河ド構想を練ったと言われる。後、山岡荘八の遺言によりこの屋敷は奈良市に寄贈された。現の資料館として刀や鎧などの武具や各種生活道具などが展示されており、当時を忍ばせる	ジラマ「春の坂道」の原作はこの屋敷で 全は、小山田主鈴や山岡荘八、柳生藩	守るため	の視点	屋外広告物の設置による景観阻害のおそれがある。屋根並みの保全をはじめとした集落景観の保全・形成のため、建築物等や屋外広告物の高さや形態意匠等の制限が求められる。 (施策の方向性) A-3, A-4, B-1, E-3
		いた小説「春の坂道」を著し、昭和 46 年 (1971) に同小説をもとに NHK 大河ドラマ「春の坂道」が放送されることにより有名になった。剣豪の里として数多くの説話・伝承	つわる歴史文化遺産 ~			電線類が視界に映り込む。電線類の美装化等が求められる。
	民俗文化・生活文化 文学・芸術作品 説話・伝承	れていた芍薬の切り口の鋭さに驚き、武蔵はこれほどの手腕の者がいるとは柳生一族の実態は世間でいう以上なのかもしれないと思ったという。 〇柳生石舟斎宗厳が修行中に天狗を切ったと思ったら天狗はいなくなっており、代わりに巨石が真二つに割れていた。それが一刀石であると伝えられている。 〇柳生十兵衛が家光の内命で西国大名の動向を探るため、10年余り西国・九州をめぐるが、その出立の際、先祖の墓所である中宮寺に一株十兵衛杉として、柳生の里の象徴となっている。		整えるための	めの視点	周囲の自然豊かな景観に馴染まない建築物、工作物、屋外広告物などがみられるため、修景が求められる。 (施策の方向性) F-3, F-4, H-1
		<ul><li></li></ul>				
情報としての景観の特性	名所案内記 絵 図 等	柳生集落 寛政3年(1791)の「大和名所図会巻ノニ」に「柳生營」がみられる。 所案内記			めの視点	観光客アンケートであげられた眺望景観であり、奈良の主要な観光地のひとつとして、地域住民と連携しながら、眺望景観も含めた積極的な情報発信をしていくことが求められる。
	インベントリー	柳生集落 奈良は「新日本観光地百選」(昭和62年)に選定されたなかの観光地のひとつとして柳生もあげられている。 柳生街道 奈良と柳生を結ぶ柳生街道は「歴史の道百選」(平成8年)にも選定されている。		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		視点場として整備されている場所はなく、柳生集落や周囲の歴史文化遺産との関係が分かるような案内板や休憩施設の設置などの検討が求められる。 (施策の方向性) K-1



No. 36	田原地区の	茶畑、田園風景の眺望	類	型	VI : 生活・生業型眺望景観
第四等の農地					田原地区(県道 80 号)
				対象	茶畑等の農地
				近 景	山林、茶畑等の農地
		- 県道607号	眺望空間	中景	山林、茶畑等の農地
				遠景	山林
周囲を山林に囲まれた道路沿道の所々に地形に応じて波打つ茶畑が広がり、ゆとりのある景観をつくりだし、茶畑、田園、山 <b>目に見える景観の特性</b> 株が変化に富んだ緑豊かなシークエンス景観をつくりだしている。地形特性に応じた土地利用の知恵を感じとることができる。				市街化調整区域であり、農地の多くが農振農用地として保全されている。山間に多く位置しているため、茶畑への眺望を阻害するような建築物等が沿道が建設されるおそれは少ないと考えられる。しかし、耕作放棄や農地転用などにより、	
心で感の特性	歴史的背景	茶の生産 田原茶の起源は相当古いが明瞭ではない。文献での初見は、山本平左衛門忠辰の日記であり、元禄7年5月10日の条に「茶摘ヲ始ム」とある。明治12、13年(1879、1880)頃、田原の茶が神戸市場で好評を博したという(田原村史)。「大和国町村誌集」によると、明治15年(1882)頃の田原町における茶の生産は81,143斤にのぼり、奈良市内では突出して多い。茶の生産は、茶の価格の変動が大きく、霜害を受けることも多く、「田原村史」によると、田原村では生産費の高騰と輸出の不振によって収支相償わず、明治27、28年(1894、1895)頃には茶畑を廃して甘藷を栽培したり、荒廃して山林になったりし、明治30年代には産額を減らしている。しかし、改良奨励政策等により明治40年代頃から、回復に向かい、明治44年には田原村に製茶伝習所も開かれている。大正期には、東部山間地の多くの村では茶業から養蚕業へと比重を移していったが、田原村は歩みを異にし、養蚕業が茶業にとってかわることはなかった。	守るための視点		徐々に眺めが変容してしまうおそれがあるため、農業の支援により生業として持続していくとともに、周囲の山林についても適切な管理を進め、総体として美しい自然景観を保全・継承していくことが求められる。
	民俗文化・生活文化 文学・芸術作品 説話・伝承	茶の生産 生業として古くから茶生産が営まれてきている。県下茶業の先進地として、近代以降も茶の生産が続けられ、昭和3年(1928)11月の昭和天皇の即位式典の節、県内農産物のうち錫壷に入れた200グラムの田原茶(煎茶)だけが唯一買上の名誉を得たと伝える(「田原村史」)。			沿道のガードレールが白い帯のように連なり、突出して見
			整えるための視点		える。自然景観に調和したものに修景していくことが求められる。
	眺望景観の 構成要素の 関 係				(施策の方向性) H−1
情報としての景観の特性	名所案内記 絵 図 等		- 活かすための視点		田原地域の茶畑は有名であり、その景観は多くの人が知っているが、それを良好な眺望景観として認知はされていないと考えられる。眺望景観として積極的に情報発信していくことが求められる。 (施策の方向性) J-1
	インベントリー				

